

【事業の実施方針】

白ねぎの軟腐病による商品収量の低下を抑え、白ねぎ増収による生産者の所得向上の実現を図る目的で、大分県(農林水産研究指導センター)が平成22年に開発したプロベナゾール剤の2回散布体系実施体系技術の県域への普及・定着を図る。

【成果目標及び達成状況】(H25.3月末)

平成23年度(基準年):導入戸数 10戸

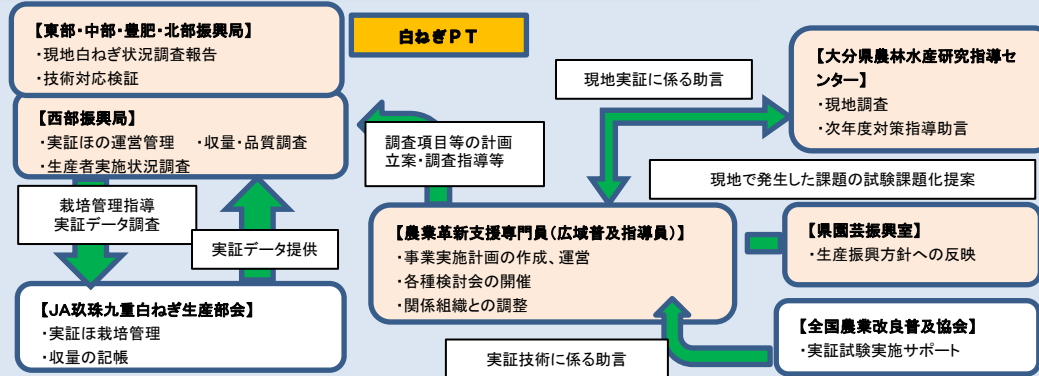
平成24年度 : 20戸

平成28年度(目標年):70戸

新技術の内容

軟腐病対策としてプロベナゾール剤を6月・7月の2回散布を行うことで当病害を抑える技術で、商品単収が図られる技術である。(2010年に大分県農林水産研究指導センターにより開発)

実施体制図(研究・行政等との連携、役割分担等)



24年度事業の取組内容

【軟腐病防除生産者講習会1回(1月21日)】

JA玖珠九重及び白ねぎ生産部会員を参集し、広域普及指導員(農業革新支援専門員)、西部振興局普及指導員が軟腐病の防止対策に向けた生産管理手法・排水対策・生育促進の必要性を説明・周知徹底を図った。

【実証ほ設置打合せ3回(1~3月)】

農業革新支援専門員が中心となり、西部振興局・JA玖珠九重・白ねぎ生産部会及び(株)ｸﾙﾀと協議の上、次年度の軟腐病防止に向けた総合実証試験手法等を決定。

【現地調査 のべ17回】

大分県内の白ねぎ産地における軟腐病の発生状況及び生産指導を実施した。

【プロジェクト班会議6回】

県内の普及員・試験場他を参集し、現地調査状況調査の報告、今後の対応を協議した。

【先進地視察2回(8、2月)】

農業革新支援専門員が全国ネットワークを活用し、鳥取県において普及指導員による先進地視察を実施。

技術実証の成績等(H24)

- ・今年度の薬剤の適期散布の推進の結果、**当技術の導入は前年実施者の倍となる20名となった。**
- ・しかし、生産実績は昨年九州北部を襲った記録的豪雨による影響が強く残り、過湿による根傷みと軟腐病菌Erwinia菌(エルビニア菌)の影響を避けることができず軟腐病を効果的に抑えるには至らなかった。

技術実証及び技術普及における課題(H24)

- ・軟腐病の効果的な防除には、薬剤散布の他、以下の点に配慮した対応が必要であると示唆される。

①プロベナゾール剤の2回散布(当事業取組技術)

②効果的な排水性の確保

③軟腐病の蔓延・被害拡大の前に商品出荷できる作型の再構成

①については当事業により推進を再度進める。②については水田跡地であることから耕盤破碎が必要であるが借地ゆえの作業難(地権者が嫌がる)・復田の見込が立たないことに対する懸念等により実施が徹底出来ない実情がある。③については、軟腐病被害が盆明け傾向に急速に拡大することから早期の出荷が可能となる作付け検証が必要である。

次年度に向けた課題への対応方策

1. 効果的な排水性の確保については、生産者が①水稻への依存度が高いこと、②借地が多く抜本的な排水対策に対する地権者の反発等がネックとなり、抜本的な対策が進まない。その中で鹿児島県がこの課題の解消が見込まれる取組を構築した。この復田可能な排水対策の実証技術の現地試験を平成25年度に実施する。
2. 作型改善については、当該地区が冷涼な温度帯であるゆえ白ねぎ生育が不安定にあっている。同時期に出荷される産地においては加温育苗等の実施しているの、この取組を平成25年度に実施する。
3. 軟腐病の抵抗性や、早期出荷に対応が可否については品種本来の持つ影響が非常に強いことから、上記2に関する品種比較調査を行う。
以上1. ~3. を組み合わせた総合的な軟腐病防除体系の試験を実施する。